



別所憲法9条の会 たより

2022年5月第169号

安保法制廃止・憲法改悪許さない全国署名で対話を・戦争させない・共謀罪は廃止に！

5日は立夏。夏の兆しが見え、蛙が鳴き始める頃です。長池公園は春に芽吹いた木々が葉を広げ緑が深まってきた。木漏れ日や池の水面までも緑一色に包まれているような優しい気分に浸り、ちらほらと蛙の鳴き声を耳にしながら、この時期ならではの季節感を大いに楽しみたいですね。

夏の参院選が迫る中、連合の「自民シフト」や国民民主党が候補を立てる山形で自民党が擁立見送りを検討などという情報が流れています。政権に向き合う立場のあいまいな野党は、「ゆ党」と評されることがあるそうです。野(や)と与(よ)の中間にあるからだそうです。数の力で与党ペースの国会が、正常に機能するためにも、政権を監視し信念をもって次の与党を目指す野党の存在が重要だと思います。これ以上「ゆ党」を増やさず、何としても9条を守らなければなりません。夏の参院選はそんな与野党を監視できる私たちの大切な機会でもあります。みんなが考える機会となり投票率も伸びるようにと願っています。



5月のご案内

5月例会

日時 5月 28日 (土) 13:30~16:00

会場 長池公園自然館 レクチャールーム

内容 『9条の持つ力を改めて確認し、伝えよう』

講演会と交流会です

講師に東海大学教授 永山 茂樹さんを招きます。

ロシアのウクライナ侵略に対して、各国の武器援助がどんどん進められ終息が見えません。日本では軍事費倍増、軍備増強、明文改憲をあおる主張も活発になり、憲法審査会の動きも心配です。

★今回は質問交流時間を多く取ります。疑問をしっかり解決して帰っていただきたいと思います。小さな事でもどんどん質問をもってご参加ください！

★新型コロナ感染症は、まだ感染拡大など心配されています。油断できません。十分気をつけて会館の指示に従いご参加ください。

堀之内駅前での宣伝

5/16 (月) 10:00~
改憲させない・9条守ろう
軍事費削ってコロナ対策に

5/15 (日) 14:00~
NO WAR 八王子アクション
JR 八王子駅北口

5/19 (木) 18:30
改憲反対・戦争反対
戦争させない 19日行動
衆議院議員会館前



4月例会の報告

「改めて改憲問題を考えよう」をテーマに、自由に意見交換しました。

資料は①九条の会事務局からの声明「ウクライナ侵略とそれを口実とした9条破壊、改憲を許さない」②米の対日政策の経過③東欧の領土変更④ウクライナ支援をめぐる発言。が配布され説明を受けた後の交流では、

★アメリカは、日本をどうしたいのか？よくつかめない。日本会議のメンバーは戦前回帰を求めている？

★先の戦争で、日本は今のロシアと同じように国民を総動員して無謀な戦争をしてきた。

★ウクライナの人たちは何故どのように戦えるのか？自由のために戦っている。国のためにではない。日本は違うだろう。我々はどのような立場で居ればいいのだろうか？軍事支援をどう見るのか？

★野党がしっかりして平和主義で行けばいい。日本人が戦争を望むとは思えないが情報操作がされ、同調することも十分考えられる現状。やはり教育が重要だ。自分の目で見て考える力を育てることが重要。

★ウクライナのように日本が侵略されたら何とかしなければと言う動きが有る。これに対してどうするか？9条で守れる？と説得力のある内容が欲しい。世論をどう作って行けるのか？

★9条の意味をしっかり学び伝えていく必要がある。どうすれば良いか？などなどと交流しました。



ロシアがウクライナ侵略を開始して2ヶ月半、日本とも国境を接する国であるだけに、危機感を抱く人もいるだろう。ウクライナのようになら大変だ、今の自衛隊で良いのか、憲法9条で国を守れるか。こういうときに決まって現れる危機便乗の輩が声高に改憲を叫び、防衛予算倍増のGDP比2%などと言い始めた。

なぜロシアがこのような暴挙に出たのかを考えてみよう。ウクライナにも、ロシアと対立する火種がなかったわけではない。ウクライナが米国を盟主とするNATOに加盟し、そこに軍事拠点を作られたら自国の安全保障にとっての大きな脅威だ、ロシアがそう感ずるのも理解できる。だから攻撃される前に、自衛目的の《敵基地攻撃能力》を発動…。

しかし、国家間の問題を戦争によって解決を図るのは、現代では御法度である。外交手段を尽くすというのが国際社会における暗黙の了解であり、原則だから。文明国であるロシアが、なぜこのような行動をとったのか。ロシア憲法に問題があるからである。ロシア人がみな、戦争を望んでいるわけではない。それならば、なぜプーチン政権は戦争を始めることができたのか。《立憲主義》に基づく憲法ではないからである。立憲主義とは、憲法を権力拘束規範と位置づけ、国家権力の暴走を止めることを言う。

ロシアの新聞やTVが自国民に伝えるのは、これは戦争ではなく、ウクライナを非ナチ化するための特別軍事作戦であり、一般市民を攻撃してはいないというものだ。今のロシアには《表現の自由》がなく、政府と見解を異にする情報発信が許されない。軍に関する虚偽情報を意図的に流した場合、15年の刑を科すことができる軍事情報統制法あるいは虚偽報道禁止法ができた。病院や避難所を攻撃するな、民間人攻撃をやめろとの主張は、これに抵触することになる。

政府やプーチン大統領が決めたら、誰もそれに反対できない。2020年の憲法改正で《愛国主義》が採り入れられ、学校教育に導入されるようになった。軍事情報統制法とか虚偽報道禁止法もそうだが、議会での慎重な審議もなく成立してしまうことからも、ロシア憲法が前近代的なものに留まっていることがわかる。立憲主義とは、独裁政治を防ぐために、人類が到達した仕組みなのである。

ロシアを見ていると、昔の日本を思い出すという人が多い。中国侵略戦争を満州事変と言い換え、大本営発表だけが情報源、思ったことを表明すれば非国民扱いされ、治安維持法によって拘束されたかつての日本。ウクライナみたいに攻められたら困る、その通りだと思う。しかし、ロシアのように攻める側ならかまわないのか。立憲主義、憲法9条、表現の自由、これらがあるからこそ、日本はロシアにならずにすんでいる。ロシアが戦争を始めてしまったのは、日本のような憲法が無いためであると言っても良いだろう。

こう考えると、政府与党が進める改憲案は、実はロシアの政治に近づくものであることがわかる。新聞報道やTV番組制作に介入し、君が代・日の丸を強制してきた政府である。戦争を始めると決めたら、《緊急事態条項》を振りかざし、国会も開かず、反対の声を封じ込めるだろう。敵基地攻撃は先制してこそ意味があるから、日本から戦争をしかけることにもなりかねない。ロシア脅威論を煽りながら、その実ロシアになろうというのだから、矛盾でしかない。

国家権力は、いつだって自らを拘束する立憲主義の力を弱め、やりたい放題を望むものだから、国民に嘘をつき、騙そうとする。私たちは賢くなり、騙されないようにしなければならない。

それこそが自衛というものである。

(しみずたけと)



今こそ9条を 一5.3 憲法集会に参加してー

ウクライナ危機に乗じて、自民党や維新は、防衛費2パーセント、敵基地攻撃能力、核共有など大胆な防衛力強化を打ち出しました。日本は安保法制の下、集団的自衛権も認めています。台湾をめぐって、米中が武力衝突にでもなったら、やられる前に敵の中核をたたける敵基地攻撃能力を持ったミサイルを撃ち込むのでしょうか？核のボタンはアメリカが握っているのではありませんか？抑止力は際限のない軍拡競争です。1兆円あまりの防衛費はどこから出るのでしょうか？年金、社会保障費をこれ以上削るのでしょうか。黙っているときではない。



別所憲法9条の会ホームページ <https://bessho9.info/>

